

# 消防学校だより

令和5年6月号

発行年月日 令和5年6月30日  
発行 宮崎県消防学校

## 警防・特殊災害科（消防ポンプ車の構造）

6月1日（木）、株式会社 モリタから、栗山 氏を講師に招き、消防ポンプ車の構造について講義していただきました。

吸水原理や、基本的構造を再度基礎から学ぶことで、現場での消防ポンプ自動車の、安全で迅速な運用に役立てることができます。

また、消防用車両は、一度配備されると二十年近くの長い年月運用する事となります。普段からの点検、整備などに学んだ知識を役立てましょう。



## 警防・特殊災害科 特別研修（特殊災害対応）

6月1日（木）、総務省消防庁 消防大学校から、大西 俊哉助教授を講師に招き、特殊災害対応について講義していただきました。今回の研修は、特別聴講という形をとり、入校者以外の県内消防職員にも講義を開放しました。



## 警防・特殊災害科（消防活動訓練）

6月6日（火）、実火災体験と、火災性状と放水技術の訓練及び、脱出要領を実施しました。



## 警防・特殊災害科(CBRNE 資器材取扱い)

6月7日（水）、帝国繊維株式会社から寺本 安孝氏、松藤 朝日子氏、ドレーゲルジャパンから柳井 憲明氏を招き、CBRNE 資器材取扱いに関する講義をしていただきました。





## 警防・特殊災害科（電気災害）

6月8日（木）、九州電力送配電株式会社宮崎配電事業所から、井上 大輔氏、上永 裕之氏を招き、電気災害に関する講義をしていただきました。

現代の生活は電気無しでは成り立ちません。電気の特性や災害対応について学びました。



## 警防・特殊災害科（山林火災）

6月8日（木）、宮崎市消防局から吉村 奉恭司令補を講師に招き、山林火災対応について講義していただきました。

本県の森林面積は、県土の76%に当たり、どこの所属でも山林火災が発生する可能性があります。

宮崎市消防局管内で発生した山林火災事案を題材に、現場活動について話していただきました。



## 警防・特殊災害科（航空機火災）

6月9日（金）、国土交通省大阪航空局宮崎空港事務所にて、古田航空保安防災官から「空港消防の位置付け」、航空保安協会宮崎第一事務所官元主任から「航空機火災対応」、株式会社日米商会航空部 谷口支配人から「航空機燃料の危険性」、全日本空輸株式会社宮崎空港所 塩田所長から「航空機機体構造」の講義を受けた後、航空消防隊の使用する車両を視察しました。普段見ないA-1級のポンプを積んだ消防車など、市町村消防の車両との違いを間近に見る事ができました。



## 警防・特殊災害科（BC 災害対応訓練）

6月12日（月）、宮崎市北消防署東分署にて、県内唯一の高度救助隊指導の下、BC 災害対応について、座学と実科訓練にて学びました。午前は、大羽 貴一郎隊長の講義で特殊災害対応について学び、午後から、高度救助隊員による化学防護服等の着脱説明と、乾的除染要領を行った後、高度救助隊の展示訓練を見学し、同じ想定での訓練を実施しました。





## 警防・特殊災害科（学生企画訓練）

6月13日（火）、警防・特殊災害科の総括訓練となる学生企画訓練を行いました。この13日間で学んだ効果を確認できた訓練となりました。



6月14日、第32期警防・特殊災害科は全てのカリキュラムを修了しました。

## 初任科（救急）

6月1日（木）、搬送法を実施しました。様々な搬送要領を修得する事は、要救助者の負担が軽減されるのは無論ですが、自らの身体への負担軽減にも有効です。しっかり訓練しました。



## 初任科（火災防ぎょ：個人用防火服）

6月7日（水）、帝国繊維株式会社 寺本 安孝氏から個人用防火服について講義していただきました。個人用防火服の様々な特性や機能について理解を深めました。



## 初任科（小型ポンプ操法）

6月9日（金）、小型ポンプ操法を行いました。空操法を反復訓練し、初の放水訓練となりました。放水反動力を体験した事で、放水基本姿勢の大切等を学びました。



## 初任科（安全管理 KYT）

6月12日（月）、安全管理の授業にて、危険予知訓練を行いました。各班で、危険予知シートを確認し、どのような危険が潜んでいるか、また、危険排除のために、どのような対策が必要なのかなどを話し合った結果を発表しました。今後の安全管理に役立ってます。





## 初任科（消防救助操法 応急はしご）

6月13日（火）、応急はしご操法を行いました。これまで、三連はしごの基本操作、ロープ基本結索を反復訓練してきましたが、応急はしご操法を行うことで、基本操作の大切さ、また、基礎の積み重ねで活動が行える事を学びました。



## 初任科（特殊災害 NBC）

6月14日（水）、特殊災害の授業を行いました。様々な環境下で活動を行うにはその場に合った防護服の着装が必須となります。防護服を着装してみました。



## 初任科（非常呼集）

6月15日（木）、今年度、初めての非常呼集を実施しました。現場に配属されれば、いつ何時召集されるか分かりません。常に緊張感を持ちましょう。



## 初任科（双石山登山）

6月23日（金）、初任科恒例の双石山登山を行いました。登山口までの約10kmランニング、小谷登山口から展望台を目指し登山を開始し、硫黄谷休憩所を經由し丸野駐車場から消防学校までの約8kmをランニングで帰校しました。同期とともに流した汗が思い出となりました。



## 初任科（プール清掃）

6月26日（月）、水難救助訓練を前に、水難救助訓練用プールの清掃を行いました。

1年間の汚れをきれいに洗い流しました。



## 初任科（消防操法訓練）

6月28日（水）、ポンプ車操法、小型ポンプ操法を行いました。消火活動の基本動作を熟知し、消防活動に役立てます。





## 救助科

6月19日（月）、第34期救助科に13名が入校しました。これから7月14日（金）までの約1ヶ月間、救助業務に関する知識、技術の習得、同期との絆づくりに励みます。



都城市	野邊	将馬
	山下	恵輔
延岡市	加門	大樹
	富岡	大輝
日向市	矢野	裕人
	石田	純平
日南市	松田	雄介
	林田	翔意
西 諸	橋谷	直樹
西都市	貴島	大季
東児湯	中竹	雄亮
	日高	恵太
西臼杵	佐藤	敏隆（総代）

### 救助科（電気事故対策）

6月22日（木）、九州電力送配電株式会社宮崎配電所から講師に来ていただき、電気事故対策訓練を実施しました。電気災害の基礎知識を座学にて学んだ後、実際に電柱を使用し訓練を行い、柱上での救出の要領を習得しました。



### 救助科

（玄関ドアの構造と開放要領・ガラスの種類と強度）  
6月22日（木）、株式会社LIXIL 大西健氏、AGC グラスプロダクツ株式会社 乾 淳氏を講師に招き、玄関ドアの開放、各種ガラスの破壊を行いました。



### 救助科（エレベータ事故対策）

6月23日（金）、株式会社イーデンから講師に来ていただき、エレベータの構造や、救出要領について学びました。エレベータ実機を使用し学習した事で、より良い訓練効果を得ました。



### 救助科（シャッターの構造と開放要領）

6月23日（金）、文化シャッターサービス株式会社から講師に来ていただき、シャッター開放要領を実施しました。使用するエンジンカッターのブレードで切断後の作業が変わってくる事など、開放に必要な技術、知識を習得できました。



### 救助科（外傷アプローチ・交通救助）

6月26日（月）、都城市消防局特別救助隊を講師に招き、外傷アプローチと、交通災害救助訓練を実施しました。救助隊には、要救助者の様態を見極め、災害環境に応じた適切な方法で、迅速に救出する事が求められます。様々な交通災害環境を取り入れ、「気付き」の持てる訓練を提供していただきました。





## 救助科（次世代自動車の構造と事故対策）

6月27日（火）、宮崎トヨタ自動車株式会社サービス部技術グループ 河野 剛士氏を講師に招き、自動車業界の動向、自動車の種類、事故対応について講義していただきました。



## 救助科（火災救助）

6月27日（火）、火災救助訓練を実施しました。火災性状の座学を行った後、注水技術、実火災体験、緊急避難行動の訓練を実施しました。



## 救助科（チェーンソー取扱い訓練）

6月28日（水）、宮崎機械 戸郷 洋逸氏からチェーンソーの構造、取扱い、及び、整備の方法等を学習したあと、校外の山林に出向し、宮崎中央森林組合の指導の下、チェーンソーの基本操作、鋸断、伐倒等の実科訓練を行いました。



## 救助科（山岳遭難救助）

6月29日（木）・30日（金）、日本山岳ガイド協会、国立登山研修所講師の笹倉 考昭氏を講師に招き、山岳遭難救助研修を実施しました。1日目は入山前のプランニング、アンカーの構築と総合的な評価、及び、確保理論等の座学を行い、2日目の実地訓練では、初日に学んだ事の実践と、救出訓練、搬送訓練を行いました。2日目には西諸広域消防本部より 岡原 由典 消防士長に助教として来ていただき、安全に効果的な訓練が実施できました。



## 7月の主な行事

- 救助科 ～7月14日（金）まで
- 初任科実務研修 7月31日（月）～8月7日（月）

宮崎県消防学校

担 当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電 話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp